



おわりに

---



## おわりに

---

本資料では、環境影響評価の技術支援を目指して、これまでの国が直轄事業として実施した全国の道路事業の実績を踏まえ、環境保全のための取り組みに関する技術情報と参考となる事例を紹介した。現在の科学においても、動植物の生態や、生態系の構造と機能、及びこれらに人為的改変が及ぼす影響の詳細についての理解は、必ずしも十分ではない。一方、調査技術などのテクノロジーは日進月歩の発展を続けている。今後も環境保全措置等の効果向上・効率化にむけた技術開発、知見の蓄積が進むものと考えられる。今後、本資料をもとにして、より一層の効果的・効率的な環境保全のための取り組みが行われることを期待したい。

また、現在、道路を取り巻く社会情勢や人間と自然との関わりは大きく変わりつつある。道路は、限られた予算の中で効率的に維持管理を行いながら運用していくことが求められており、自然環境に対しても適切な維持管理を行うことによって環境保全措置等の効果の発揮・継続を図ることが重要となる。また、希少種保全のみではなく、身近な生物や生き物どうしのつながり（生態系）の価値が見直されるようになるとともに、中山間地の過疎化等による里山環境の荒廃、シカやイノシシやサルなどによる農耕地への被害、貴重な地域の植生の食い荒らし等も大きな問題となっており、野生動物を人との生活の関わり方から考えていくことも重要になると考えられる。

このような背景の下で、動物、植物、生態系の環境保全措置等を効果的・効率的に行うためには、道路事業者による取り組みに加え、地域の関わり方もより重要となる。自分たちの住む地域の環境を保全・維持したいと考える住民が、道路事業者の取り組みに継続的に関われる仕組みの構築が求められる。本事例集の中にも参考となる先行的な取り組みを紹介しており、地域と一体となった環境保全措置等のさらなる広がりを期待したい。

以上のように、環境保全措置等の手法や仕組みも、時代背景に合わせて変化させていく努力が必要と考えられる。本資料がそのような取り組みの一助となり、我が国の豊かな自然の保全に資することを期待する。

平成28年3月

防災・メンテナンス基盤研究センター 緑化生態研究室  
道路交通研究部 道路環境研究室

## 謝辞

このたび、「道路環境影響評価の技術手法「13. 動物、植物、生態系」における環境保全のための取り組みに関する事例集（平成27年度版）」を策定するにあたり、以下に示す有識者の方々よりそれぞれのご専門の見地から個別にご意見、ご助言をいただいた。ここに衷心より感謝の意を表する。

また、北海道開発局、地方整備局、内閣府沖縄総合事務局の皆様からは多大なデータを提供していただき、貴重なご意見を承った。ここに心より感謝を申し上げる。

大澤 啓志	日本大学生物資源科学部 准教授
金子 弥生	東京農工大学農学部 准教授
萱場 祐一	土木研究所水環境研究グループ上席研究員
須田 真一	中央大学理工学部 専任研究員
中村 圭吾	国土技術政策総合研究所 河川研究部 河川研究室 主任研究官
西廣 淳	東邦大学理学部 准教授
葉山 嘉一	日本大学生物資源科学部 准教授
日置 佳之	鳥取大学農学部 教授

(五十音順、敬称略)